

## 藤原清志さん(八十八歳)戦争体験記



岩手県花巻市出身で、門徒の藤原さんが、ご自身が九歳の時に経験した戦争体験を子どもたちに語ってくださいました。当時の子どもから今の子どもへ。情報として伝わっている戦争とは違う、生々しいお話に子どもたちは言葉もなく聞き入っていました。「今、伝えられることを」とお話くださった藤原さんには心より感謝申し上げます。

私の実家は花巻市にある農家です。家には囲炉裏があり広い居室は一面戸ガラスでした。昭和二十年八月十日、とても暑い日でした。お昼過ぎ、花巻駅にアメリカの戦闘機から機銃掃射で爆弾が落とされました。三つ上の兄が「あっ！爆弾だ」と叫ぶ方を見るとガラス越しに太陽に反射してキラキラと落ちていく爆弾が見えました。その爆撃でお隣の一年生の女の子のお父さんが亡くなりました。体には八発もの弾の跡があったそうです。遺体が運ばれてきて庭先の大きなたらいで洗ったそうです。不思議なもので当時は人が亡くなっても悲しいとか可哀そうとかさういった感情は一切浮かんできませんでした。そしてもうひとつ、戦争が終わったからのことですが、農家である我が家でさえ食べるものがなくなり、とてもひどい思いをしました。食べ物求めて来た人が生き倒れるような姿も見られる悲惨な状況でした。

(一部抜粋)

今日はスイカわりをしたり、お腹いっぱい朝ごはんを食べたり楽しく過ごすことができましたが、藤原さんのお話を聞いて(こんな風に過ごせるのは、今が本当に平和だからなんだな)と実感しました。

(参加者の感想より)

## 九月同朋会(第二土曜日)

仙台市博物館へ行こう

親鸞聖人生誕850年 特別展

「親鸞と東北の念仏

—ひろがる信仰の世界—」展

日 九月十四日(土)

時 午後一時

場所 仙台市博物館ロビー集合

(地下鉄東西線 国際センター 駅下車 南出口徒歩6分)

仙台市博物館に親鸞展がやってきます。めったにない機会ですので9月は移動同朋会として、住職・前住職と一緒に拝観したいと思います。入場券は徳泉寺で購入しますので同朋会員の方は無料となります。ぜひ、この機会に親鸞聖人と東北の念仏の歴史に触れてみましょう。

※なお、特別展は九月十日〜十一月四日まで開催しています。ぜひお出掛けください。

女性二人のリーディングユニット

劇団ふたり

朗読会

日時 9月11日(水)  
13:30~15:00  
(13:00開場)

プログラム

『シンデレラ王妃の幸福な人生』

星新一作(劇団ふたり)

詩『人はかつて樹だった』より

長田弘作(坊守)

『南無阿弥陀仏』 同朋奉讃

(住職)

『さんちき』 吉橋通夫作

(劇団ふたり)

